

令和7年度学校経営計画書

学 校 名 三次市立布野小学校
校 長 名 一山 恭子

I 学校の状況

学級数	6	児童・生徒数	48	教職員数	10
メールアドレス	funo-e@school.miyoshi.hiroshima.jp				
ホームページアドレス	http://www.school.miyoshi.hiroshima.jp/elementary/funo/				

II 学校教育目標

「自信と安心」

自らとふるさとに誇りをもち、仲間とともに、夢や志に向けて主体的に活動する児童の育成

1 めざす児童像

(1) 自ら進んで学ぶ子ども【知】

学習意欲（探究心）の向上 思考力・判断力・表現力の育成

(2) 自他を大切にする子ども【徳】

自己指導能力の育成 規範意識の醸成 良好的な人間関係の構築 郷土愛の育成

(3) 心身ともに健康な子ども【体】

体力（耐力）・気力の育成 安全管理の充実 健康教育・食育教育の充実

教育相談の充実 安全を守る力の育成（防災教育の充実）

2 研究主題

主体的・協働的に探究する児童の育成

～布野style（問い合わせ・対話・振り返り）の授業づくりを通して～

3 布野中学校区コミュニティ・スクールのめざすところ

ふるさとを知り、ふるさとから学び、ふるさとを愛し、貢献する子どもを育む。

・社会性 ・コミュニケーション能力 ・責任感 ・たくましさ ・郷土愛

III 使命・存在意義（ミッション）

児童のなりたい自分の夢や志の実現のために、ふるさとへの郷土愛を育むとともに、変化に対応して生きる力を身に付けた人材の育成に貢献する

1 これらかの変化の激しい社会を生き抜く人を育てる

(1) 「学びの変革」「みよし学びの共創プラン」の具現化

(2) みよし結芽人の育成

2 保護者・地域の願いに応える

(1) 自分やふるさと布野に自信と誇りをもつ児童の育成

(2) コミュニティ・スクールとして、学校・地域・家庭が協働した児童の育成

3 めざす学校像

(1) 安心・安全に過ごせる学校

(2) 子どもが生き生きと活動する学校

(3) 保護者・地域と連携・協働する学校

IV 重点事項（努力点・資質能力を育成するために）

1 児童に資質・能力を身に付けるために

（1）生きて働く知識と技能

（教科で学んだ知識や技能（既習事項）を活用する場を工夫し、基礎学力を定着させる。）

（2）調整力

（対話により、合意形成を図る。自らの学習を振り返り、学びや行動を調整する。）

（互いのよさを認め合うことで共感的な人間関係の育成を図る。）

（3）主体性の育成

（探究的な学習（PBL）を各教科等で推進する。評価を工夫することで児童の意欲の向上、学力の向上を図る。一人一人の役割意識を高め、自己存在感を感受させる。）

（4）自らへの自信

（挑戦することを積極的に促し、できることを増やすとともに、がんばったことを表彰して自信につなげ、自己肯定感を高める。自己決定の場を提供する。）

2 学校・家庭・地域が協働したコミュニティ・スクールにするために

（1）「Let's」の意識で取組を推進

・家庭・地域と共にある学校（学校運営協議会・地域学校協働活動の実施）

・児童と地域の人との対話・熟議の場の設定

（2）小中一貫教育で9年間を見通したカリキュラムの実施

・コアカリキュラムの研究

・異年齢交流の場の設定（合同運動会・短歌交流会・ボランティア活動 等）

・各教科の学びと総合的な学習の時間の学びの往還を図る。地域学習の単元開発をする。

V 中心価値・行動規範

「教育の原点」＝「子どもたちは私たちの姿を見て育つ」を常に意識して行動する。

1 めざす教職員像

（1）子どもの命を守る教職員

（2）教育への情熱をもった教職員

（3）研修と修養に努める教職員

（4）組織的に職務を遂行する教職員

（5）保護者・地域と連携・協働し、信頼される教職員

2 行動規範

（1）児童は私たちの姿を見て育つことを自覚し、教職員としての使命を果たすために自らの人間性と専門性を高める努力を続ける。

（2）法令・法規を遵守して職務に専念する。

（3）研修を重ね、積極的に挑戦する意欲をもち、専門性を磨き続ける。

（4）「報告」「連絡」「相談」「確認」を大切にし、組織的に職務を遂行する。

（5）地域の教育力を生かし、保護者・地域と連携・協力し、信頼される学校づくりを行う。

3 不祥事根絶のための行動

（1）交通安全を常に意識し、交通ルールを遵守する。

（2）教育公務員としての立ち居振る舞いをする。

（3）危機管理意識を高める。

（4）体罰・セクハラを絶対にしない。

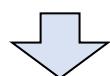
4 業務改善推進のための行動

（1）学校衛生委員会で業務の改善計画を練り、職員の健康保持増進に向けた取組を行う。

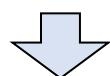
（2）月45時間以上の時間外勤務をせず、見通しをもった仕事でライフワークバランスを図る。

VI 現状分析

	プラス要因	マイナス要因																			
内部環境	<p>S (強み)</p> <p>【学校】</p> <ul style="list-style-type: none"> 教職員は協力的であり、組織として業務遂行することができる。 小規模校のよさを生かし、個別最適な学習支援をすることができる。 異学年交流（運動会、短歌交流会等）でかかわりを学ぶ。 <p>【児童】</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童は素直で明るい。 助け合って生活しようとする風土がある。 学力は個人差があるものの、平均を超える。 <table border="1"> <tr> <td colspan="3">全国学力・学習状況調査</td> </tr> <tr> <td>R6</td> <td>国</td> <td>算</td> </tr> <tr> <td>本校</td> <td>88</td> <td>80</td> </tr> <tr> <td>市</td> <td>69</td> <td>63</td> </tr> <tr> <td>国</td> <td>67.7</td> <td>63.4</td> </tr> </table> <p>【保護者】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校教育に対して協力的であり、学校アンケートで肯定的な評価をいただいている。 参観日の参加率は9割を超える。 	全国学力・学習状況調査			R6	国	算	本校	88	80	市	69	63	国	67.7	63.4	<p>W (弱み)</p> <p>【学校】</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童数減少による多様な意見交流が難しい。 職員数が少ないため分掌の負担が大きい。 <p>【児童】</p> <ul style="list-style-type: none"> 保育所から変わらない学級集団の中で、人間関係の固定化が見られる。 学力の個人差があり、個別支援を要する児童がいる。 自己肯定感が全国平均より低い児童は全体で26.4%（14人）いる。 自己肯定感・学級適応感がともに全国平均より低い児童は、13.2%（7人）いる。 <p>R6 i-check</p> <table border="1"> <tr> <td>自己肯定感</td> <td>13.2%</td> </tr> <tr> <td colspan="2">学級適応感</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> 新体力テストは瞬発力（立ち幅跳び）と持久力（20mシャトルラン）に課題がある。 肥満傾向児童は21%（11人）いる。 	自己肯定感	13.2%	学級適応感	
全国学力・学習状況調査																					
R6	国	算																			
本校	88	80																			
市	69	63																			
国	67.7	63.4																			
自己肯定感	13.2%																				
学級適応感																					
外部環境	<p>O (支援的要因)</p> <p>【地域】</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域住民や諸団体の協力を受けて学習を行うことができる。 子供教室の多様な活動が学習基盤となる。布野町まちづくり連合会、JA布野支所、読み聞かせボランティア、交通安全協会、青少年育成布野町民会議等 自然・歴史・文化・産業が身近にあり、学習素材や人材が豊かである。 布野中学校との距離が近く、連携しやすい。 <p>【市教委・県教委】</p> <ul style="list-style-type: none"> 人的配置や予算措置 特別非常勤講師等の配置 学習指導に係る相談や指導体制の確立 	<p>T (阻害的要因)</p> <p>【地域】</p> <ul style="list-style-type: none"> 公共交通機関の減少 児童数の減少 <p>【社会情勢】</p> <ul style="list-style-type: none"> 景気不良による予算の減少 物価の高騰 将来を見通せない不安定な状況 																			



取組の重点 Point



支援的要因と強みを生かした活動・取組	弱みの克服、阻害的要因の回避策
<p>・コミュニティ・スクールとして学校・家庭・地域が協働して児童を育成する。</p> <p>・地域資源を活用した学習成果を地域へ還元・発信する。</p> <p>・応募作品やコンクール等に積極的に挑戦をさせることで、さらに自信を高めさせる。</p>	<p>・「なりたい自分」の目標を具体的にもたせるようにする。⇒「自信の木」へ短冊を貼り、児童の自信見える化する。</p> <p>・「ほめほめの木」「いいとこみつけ」等により、自他のよさを見出す。</p> <p>・児童会の自治的な活動を促す。</p>

VII 中期経営目標及び短期経営目標

	中期経営目標	短期経営目標	具体的な取組・方策
確かな学力	対話を通して、学力のさらなる向上を図る。	学力の定着及びさらなる向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・布野中学校と連携を図り、9年後を見据えた一貫性のある授業づくりを行う。生活科・総合的な学習の時間に限らず全教科で探究的な単元づくりを行う。 ・各教科の見方・考え方を働かせる授業を展開する。またねらいに迫るようなファシリテートを行い、児童の発言の質を向上させる。 ・自己や他者の思考を整理したり拡散したりして、教科のねらいに迫るために思考ツールを活用する。
		対話の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・能動的な聴き手を育成する。「なぜ?」「でも…」「だって…」などたずねたり深めたりする技法を使えるように、日ごろの授業で指導・評価していく。 ・低中高に分かれて「トーキングタイム」を月に1度行い、グループで話し合う場を設ける。その際、対話の技を指導したり自分たちの話し合いを振り返らせたりする。
豊かな心	目標に向かって努力する児童を育成する。	学校行事や学期初めの目標に向かって努力する児童を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> ・学期初めに決めた目標達成に向けて、具遺体的な手立てを掲げ努力を続けさせる。また、月末に1回振り返りを行う。 ・運動会、水泳学習、布野小フェスタ、ふるさと祭、マラソン大会、なわとび大会における目標をジャンプアップシートを活用しながら決め、達成のため努力を続け、振り返りを行う。 ・キャリアログを活用して、意識を高めさせる。
健やかな体	児童の健康・安全を守るとともに、体力・運動能力の向上を図る。	健康・安全教育の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・保健指導や学級指導を通して、規則正しい生活習慣を身に付けさせる。 ・特に「起床時刻・就寝時刻・家庭学習時間・メディア時間」の目標が守れるよう、スタディーウィーク週間を設け、年間3回行う。 ・スタディーウィーク週間は、生活チェックカードを毎日提出し、声かけを行う。
		体力・運動能力の向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・体育的行事に向けての練習を通して、体力の向上に努める。 ・体育委員会主催の体を使ったレクタイムを行い、楽しみながら体力・運動能力の向上に努める。 ・新体力テストに向けて、自分の課題を理解し、課題解決に向けて努力を続けさせる。
信頼される学校	地域・保護者から信頼され、愛される学校をつくる。	保護者の学校の取組に対する満足度の向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・地域実態や学校規模を生かした教育内容を展開し、保護者や地域のニーズに応える。 ・年間2回のアンケートにより、児童・保護者の学校の取組に対する満足度や意見を把握し、教育活動の工夫改善に生かす。